

とり戻す 暮らせる郡山

社民党郡山総支部放射能対策委員会

委員長 ひだ 義 昭

2012年6月号 外

郡山市長者1-8-8 syamin@lili.ocn.ne.jp

922-8990 FAX 922-9191

池の土壤汚染が明らかに

「放射線管理区域」の100倍！

NHK ETV特集より

酒蓋池出口	299,000 ベクレル/kg	E T V 特集より
荒池 出口	231,700 ベクレル/kg	
香久池底泥	33,700 ベクレル/kg	独自調査

参考 土壤を深さ15センチ剥ぐとしてベクレル/m²に換算
299,000 ベクレル/kg 44,850,000 ベクレル/m²
*40,000 ベクレル/m²で「放射線管理区域」

6月10日のNHK「ETV特集」は、郡山市の酒蓋公園、荒池公園の土壤汚染の実態を明らかにしました。酒蓋池の場合、国の規定では40000ベクレル/m²(空間線量は0.6μSv/h)が「放射線管理区域」だが、その100倍のレベルであります。もちろん池の中に住む人はいないが、規定によれば放射能による健康障害をさけるため一般人の立ち入りが禁止されるような状況です。

「社民党郡山総支部放射能対策委員会」(以下「放射能対策委員会」)は、香久池公園利用者から不安が寄せられ土壤調査も行ったところ、ここでも高濃度の汚染が明らかになっています。

子供が池にボール、拾ったが大丈夫ですか？(学習会より)

放射能対策委員会は、6月23日に「郡山市の放射能汚染実態を知る」学習会を開催しました。NHK「ETV特集」をみながら、ETVの土壤調査・取材にかかわってきた木村真三さん(独協医科大学准教授)から提言を受けました。

酒蓋池や荒池の近くに住む市民も参加し、そのうちの一人から「子供が池にボールを落としそれを拾った、大丈夫か」など心配する質問があったように荒池、酒蓋池周辺の市民は不安を持ち、木村真三さんと呼んで独自に相談会を持っている町内会もありました。1月末にこのETV特集の土壤調査が行なわれ、3月には木村真三さんとNHKが郡山市にデータを提供し、その際木村さんは放射能汚泥のコンクリート詰めなどの対応も提案しました。しかし、その後市の対策は一向に進みません。

大飯原発再稼働反対

意見書採択

「福島原発事故原因の検証半ばで 安全より経済性を優先し、国民生活を守るとの理由で、関西電力大飯原発の再稼働を強行する政府の姿勢に強く反対する」との主旨で全会一致意見書採択となった。

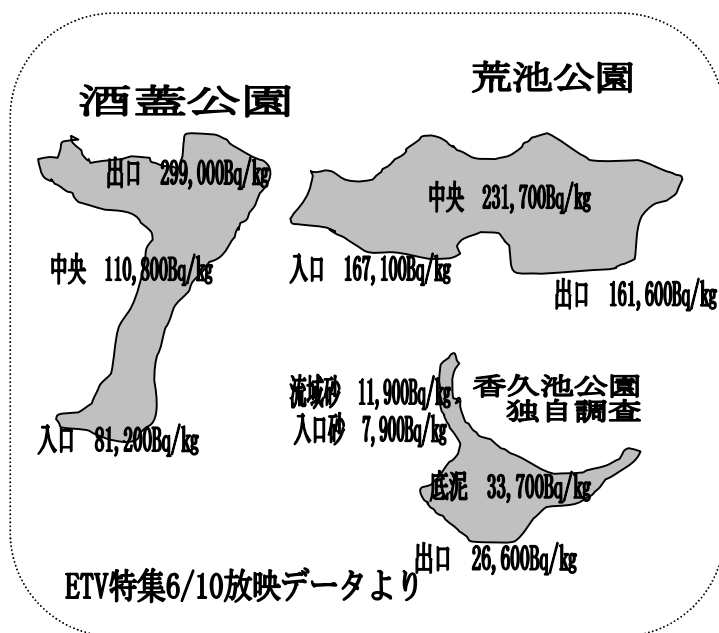
なお、請願書は平和フォーラム等三団体から提出していた。(6/29 郡山市議会)

情報も知らせず多くの市民が公園を利用

市は4月に独自に調査を行なった模様ですが、その情報も市民には出さずじまいでした。市民は情報も知らされず公園を利用していました。安全上、市の対応は大変問題があります。

「放射能対策委員会」は、E T V特集が放映される前に、市民と共同で酒蓋、荒池公園等の空間線量を調査し、多くに地点に高線量があることを確認しています。その結果をもとに6月8日市に早急な対応を申し入れた経過があります。今回の土壌調査の結果は私達の申し入れを裏付けるものです。その申し入れの際も、市は3月の木村さんらのデータ提供や市の独自調査について触れていません。

こうした高濃度に汚染された池・公園の実態が確認され、外部、内部被ばく（土埃などで体内に放射性物質を取り込む）の危険性があきらかになったことから、とりわけ池周辺に住む市民、公園を利用する皆さんにこの事実を知らせ、早急な安全対策をとり、危険な汚泥を取り除く短期、中長期的な対策を立てる必要があります。もちろん、他の池も急ぎ調査が必要です。



「放射能対策委員会」は市民の皆さんと協力し、郡山市（国、東電）に対応を求めています。

郡山市も農家から依頼の土壌検査で汚染状況をつかむ

チェルノブイリ原発事故によるウクライナでの放射線被ばくは、日本と条件は違うが、食べ物などによる内部被ばくが7～8割といわれています。市内の土壌汚染マップがすでに文科省から公表されていますが、郡山市が市内1056箇所、950戸の農家から田畑の土壌を提供してもらい分析した結果、1000ベクレル/kg～5000ベクレル/kgのところ全体が66%、政府が稲作制限とする5000ベクレル/kg以上が3.5%あったと公表されました。

農作業での内部被ばくや、田畑から舞い上がる土埃などに注意も必要です。すでに市や県で行っている農作物の線量検査の結果が公表されていますが、消費者の立場から安全な農産物が確保されているかどうか注目しなければなりません。そして、生産者が安全な農作物を生産できるように農地の除染や損害などへの賠償も求めます。

外部被曝は飛距離の長いガンマ線を浴びるだけですが、内部被曝は、セシウムの場合（ヨウ素はすでに半減期がすぎている）体内の付着した所からガンマ線のほかにベータ線（体内で1センチ飛ぶ）を放出し直近の細胞を照射します。セシウムが体内にある限りはそれが続きます。ゆえに内部被ばくの場合は、微量の放射性物質でも体への影響が小さくはありませんし、できる限り内部被曝を避ける取組みが必要です。

農地土壌汚染レベル	全体の割合	その他
2,500～5,000 ベクレル/kg	66%	
5,000～8,000 ベクレル/kg	3.5%	政府の稲作制限値

郡山市ホームページ「土壌検査結果汚染マップ」公表

何も知らずに 2 μ Sv もあるベンチに座る幼子と母親

...計測して「公表数値」との違いにがく然。市に通報は市民の義務と伝えたが？...

専門学校講師のAさん。原発事故による放射線に関する教材を作るため、市内にある7つの大規模公園の放射線を測定。その結果は、公園内の遊歩道、植え込み、公園に面する道路の隅など、いたるところで高線量(3~20 μ Sv/h)が計測されました。計測が進むにつれ実際に計測した数値と郡山市が公園に設置している表示板(除染前/除染後)の数値があまりにも違いすぎるのにビックリしました。

公園を利用する市民は、表示されている数値を信じています。何も知らずに2 μ Svもあるベンチに座って談笑する幼子と母親の姿を見たとき、Aさんは「この事実を市長に知らせることは市民の義務」と判断。2度にわたって市に測定データを提出、一刻も早く除染作業を行うよう要請をしました。しかし、市側は全く動こうともしませんでした。

掲示板の数値と実際に計測した数値が大きく食い違い

5月22日、「放射能対策委員会」はAさんと一緒に市内4ヶ所の公園を計測調査しました。市が設置している表示板の数値と計測した数値が、大きく食い違っていることが明らかとなりました。

計測調査の結果(測定日:2012年5月22日、単位は μ Sv/h)

公園名	郡山市の掲示板公表数値	実測値
荒池公園	地上50cm(計測日5/21)	地上50cm 1.60 μ Sv/h
	除染前 2.07 μ Sv/h	地上100cm 1.18 μ Sv/h
	除染後 0.54 μ Sv/h	南側遊歩道
		地上50cm 3.75 μ Sv/h
	公園北側道路端	地上1cm 17.2 μ Sv/h
酒蓋公園	地上50cm(計測日5/21)	地上50cm 1.08 μ Sv/h
	除染前 2.44 μ Sv/h	南側遊歩道
	除染後 0.69 μ Sv/h	地上1cm 3.75 μ Sv/h
五百淵公園	地上50cm(計測日5/21)	地上50cm 1.75 μ Sv/h
	除染前 2.33 μ Sv/h	
	除染後 0.69 μ Sv/h	

正確な数値を知らせること!安全対策を早急に実施すること!

この結果をもとに、市放射能直轄室(6/8)を訪ね、正確な線量調査をして表示板に正確な数値を表示すること、さらに「1.相談受付、2.放射能対策、3.放射性物質の管理、4.市の汚染マップの作成」等に対する見解を求めました。しかし、市側の説明は「国の除染計画に基づいて実施」「高線量通報あっても手が回らない」等と、全くかみ合わない説明を繰り返していました。「緊急性があるので看板など出してもいいのか」との質問にも、「直轄室だけの判断では出来ない。関係箇所伝える」程度の返答でした。早急に検討結果を示すこと、具体的な改善を行うよう求めていかなければなりません。

原因は「地震、津波が全電源奪う」東電は人災否定！

市議会特別委員会「東電に対する賠償交渉」6/12

市議会放射能対策特別委員会は、東京電力を招致し「事故原因と責任」「事故対策」「損害賠償」等で追及しました。その答えは、「**原発は国の施策で建設、事故対策は国の指導**」と。16万人もの避難が続いている重大事故を起した加害者としての責任は、どこにもありません。

汚染を問えば「福島と同じ1μ前後、20μ、30μの場所があると認識」 東電交渉Q&A

世界のフクシマとなった今、過ちを繰り返さないために事故原因を解明することが一番と言えます。

これまでの東京電力は、貞観地震（869年 M8.4）や全電源喪失事故（2010年6月）などを無視。「1日止めれば1億円の損失」と安全より経済を優先させ、定期検査短縮（3ヶ月 1ヶ月）、定期検査間隔延長（13ヶ月 24ヶ月）等と効率化を図り、原子力安全・保安院（国）に追認させています。その保安院が「オレンジカード」（危険勧告）を突きつけるほど、危険な状態にあったことは明らかにされていました。

事故説明に立った小森常務は「**地震、津波によって外部電源喪失、非常用電源は動いたが津波でダメになり全電源喪失。**（止まったが）冷やす、閉じこめるは失敗、メルトダウンは3/20ごろに。水素爆発など繰り返し、放射性物質の気体状は大気、チリ状は降下した」など平然と述べていました。

東電の加害者責任明確に！

Q 社民：「事故はありえない！」、その原発が3月11日世界を震撼させる事故になった。水素爆発により放射性物質を飛散させ多くの人々を被ばくの脅威にさらした。東電の加害者責任を明確に示せ。

A 東電（人災の主張に）巨大地震と大津波による全電源喪失で炉心溶融に至った。設備、設計等調査中でまだ十分な解明はされていない。

Q 委員 地震は100年、1000年に1回と過小評価し、国民のいのちより経済を優先した結果ではないか。

A 東電 安全優先だがリスクに対し甘かったとも考えている。経済性ではなく安全最優先で対処したい。

第一、第二原発のすべて廃炉！

Q 社民 県議会、市議会もすべて廃炉を決めている。過ちを繰り返さないため10基すべて廃炉とすべきだ。

A 東電 第一の1~4号機廃炉。第一5・6号機、第二は安全、安定維持することに集中で現場調査。どうするのかは、国民及び政府で原子力に関して議論されている。

郡山の汚染状況把握は！

Q 社民 東電は、郡山の汚染状況をどう把握しているのか。

A 東電 福島市と郡山市も同様、1μSv前後、雨樋下など20、30μのホットスポットがあると認識。生活環境としては、不安を持たせているので除染にも社名伏せ参加している。

郡山市で被ばくした人すべて賠償対象に！

Q 社民 損害賠償は、「自主的避難等」で郡山市民も対象になったが、事故時点から被ばくしている人すべて対象ではないか（住民票有無でなく被ばくした人）。対象区域拡大し賠償額も同額とすべき。

A 東電 自主的避難等の扱いは指針で示され一定金額の補償、24年1月以降も指針出されたので検討中。

仮置き場、中間貯蔵施設問題に対する回答 東電回答書より

回答 放射性物質に汚染された廃棄物や除染に伴い発生する土壌の処理については、放射性物質汚染対処特別措置法に従い、処分等が進められるのでこの法律の枠組みのもとで、協力をしてまいります。